

昭和四十二年三月二十三日招集(老号)  
第一回市議定会例会會議錄



館山市議會第一回定例会會議録(第七号)

昭和四十二年三月招集

三月二十三日(水曜日)

議事日程(第七号)

議案第三号 昭和四十二年度館山市一般會計予算

議案第四号 昭和四十二年度館山市国民健康保険特別會計予算

議案第五号 昭和四十二年度館山市簡易水道事業特別會計

予算

議案第六号 昭和四十二年度館山市之畜場特別會計予算

議案第七号 昭和四十二年度館山市休養施設特別會計予算

議案第八号 昭和四十二年度館山市館山ユースホステル特別會計予算

議案第九号 昭和四十二年度館山市南郡簡易水道事業特別會計

予算

午前十時十三分

開議

○副議長（松本藤太郎君）

今日の出席議員数二十七名

これより第二回市議会定例会第七日の会議を開会いたします。  
今日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日程第一議案第三号乃至第九号昭和四十二年度一般会計並  
びに特別会計予算案を一括議題といたします。

議事の進行方法は昨日決定されました通りの順序により行  
ないます。

これより議案第三号の歳入の部の質疑を継続いたします。

○二七番（嶋田繁君）

二三頁について質問いたしたいと思います。

第一頁は六七ページ上水道費についてであり、これは鶴山市、富田

浦町 三芳村関係の上水道の負担金として四十二年度の三千方内を充て終るものと思ひますがこの点それから聞くところによりますとはじめは劣あたりが相あるだろうという予定のものかほとんどない粘土であるという事それから管あたりも県道・国道そういうところを埋めてくるが埋める場合には砂を相有ませで埋めろ。こういう趣旨の達しがあった。これは私聞き及んだんですがこういう点から考えまゝ果して設計通りであるか追加というような見通しがあるかどうかこれで丁合されるのか次に市民センターの建設費についてござりますがこれは先般の補正予算で一億五千数百万という予定が二億千八十万という一ぺんで五千万近くの増額になっております。今後しっかり計画を立てて更正更正によつてこういうやり方はいかえていたきたい。一かりと当初から設計してのぞんでもらいたい。

これによつてはこの入札はいつ頃予定しておりますか、また着工の時期は

大分、いつ頃になりそうですか。これまでに地所の構成、こういうものも、  
不遺漏なき巨額し得るか、これが二点であります。

それから七。ページ三月農業振興費につき、負担金補助と  
いうものが非常に多い。これは各款にございますけれども、これは多い  
けれども、これは整理して、そうして重層的にいくように考えていたことは  
どうですか。

補助、負担金というものを切るのは難事でございますが、これが第三点  
であります。そうしてござれば各款にまたござっており、補助、負担金と  
いうものは総額ごとの位におるかと、総額をお示し願いたいと思ひます。  
お示し願うのも事務研究、修約の負担金とかまた法律によつてきめ  
られておる負担金、それから事業に付する負担金、こういったような各  
類的にお示し願いたい。

第四点は、市長代理者は特異性と申しますかとの予算である。本  
年度の予算を見るときに、事業が重なったということである。そうして



の建築を暫定的というようなことをちよと申されたように思いますが、学秩までも暫定的になつてしまつたのかという感を深くいたしております。

予算を作りますには健全なる予算は入るをほかて出るを制すというにかいわれます。今回の予算は出るのを見てそれに見合せていった。そこでこれらの点から考えまゝて果してこれであつて健全財政といわれるか。赤字の危険性はなしか。これをしかりお答へ願いたい。

以上

衛生施設課長（吉田耕一君）

上水道関係につきまゝお答へ申しにげます。

第一渠の負担金補助金に交付金のこの額でこの工事が終了するかということがあります。が現計画から申しにげますとこの負担金で一応終了するという考えで事務を進めております。二年度でございすが設計通りいかあるいは設計変更に伴い



ます追加の見通しはどうかという点でございますが先ほど御指摘  
ございまして通り現在岩質の調査検討をしておるような状態  
で、現段階としましては、相当数の変更はやむを得ないだろうとい  
うふうな見方の方でございます。なお配管に伴う葺き、果道の復旧  
費でございますが、これは請負と別個にいたしまして果に納入する  
わけでございます。請負費には入っておりませんが、私ども土木事務所  
等のいろいろ指導を受けまして、かような観測から設計計画よ  
りも千二、三百万円ふえるのではなかという見通しを持っております。  
私ども予定通りに上げようという観測からその減額と申しますか  
現在折衝を加えておる現状でございます。まして統一的に相当額の  
変更があるのではなかという考え方を現在持っておる次第でござい  
ます。

○農林水産課長（伊藤幸太郎君）

農林関係につきましてもお答え申し上げます。

先般も御意見がございまして、私どももできる範囲で整理して参つたわけでござります。しかしながら、ごらんいただければ、おわかりの通り、約十三の項目に分れております。そのうちの約半数以上、補助金、右担金に類するものでございまして、半数が事業費に当たる補助金でございます。やはり、郡市を通じまして、この各協議会あるいは果単位、委員会等の負担金に属します補助金でございますので、目下、この二れ以上整理することは、なると困難な状況でございまして、今後とも、できる範囲で御意見の通りに私どもとしてお世ひいたしたい。こういうふうに考えておるわけでござります。御承願したいと思ひます。

市長事務代理者助役（小島武男君）

市民センターの関係で申し上ったと思ひますが、市民センターはたゞいま現説を秘つて業者が見積り最中でござります。予定といたしましては午後二時から入札をするという段階でござります。

二の結果に待たなければ金額ははっきりしませんが相当からいふ  
計であるということも聞いておりますので相当困難性があると思  
いますけれどもできる限り私どもとしては予定の線にやってみたい  
と思ひますが若干難航が予想されることを聞いております。これが  
できますれば着工は四月に入ってからということになります。それか  
うと  
地の関係は今理め立てをやっております。今月一ぱいに完了する  
という約束でございますが少し遅れていくということと業者から伺  
てお  
ります。市民センターを作る現地だけは完全にできることは確  
定で  
ございますのでその案は心配ないと思ひます。

それから健全財政の問題ですがこれは当初に申し上げたように  
今年度は市民センターとか水道関係あるいは房南その他の臨時的な  
ものが集中投資される年でありまして歳入が非常に膨大になったこ  
とは事実でございます。このために予算編成にありましてはできるだ  
け消費部面を経費を節約いたしまして事業部門の方に回わして

いたという基本方針は年度中一にげる通りでございます。そうして  
 気持で編成一まいたかためにやはり予算としては非常に無理かて  
 きることは当然でございますので御指摘の通り本年度は土地を  
 若干売却して臨時的に充当する年であることは御指摘の通り  
 でございます。これにつきましても事前には審議をいまして歳入欠  
 陥を及ぼさぬようにということとで編成いたしましたので歳入欠陥  
 を伴わないように最善の努力を尽してやつていきたいと考えており  
 ます。

○新政課長（長谷川広治君）

負担金総額にふて中一にげます。

負担金、寄付金、負担金総額一億七百七十五万一千円という額になつて  
 おります。県に付するものが総額二千五百六十七万九千円、県の単独  
 事業推進のための団体と申しますか、それに対する負担金等が六十四  
 万、一部事務組合に付する支出金が三千四十四万、事務研究会

等に対する負担金が八十三万二千円連絡協議的な団体に打  
する負担金百三十六万六千円各種団体等に対するもの、これは  
職員への恩給組合等も含みますが三千二百七十六万五千円、部落  
事業的のものに対する負担金千四百十五万二千円、その他百九十二万八  
千円という数字になっております。このうちには果に打するものとして  
館高の方が千二百四十二万計上してございますので四十一年度当初  
予算と比較したとすると館高方を差し引きすると百四十一万三千円  
ばかり減に相なっております。

○二七番（嶋田繁君）

助役さんは無理な予算を組まれたという事をおっしゃるんですがこれは  
さうもった通り入るを見て配慮しなければならぬ、そこで端的  
に申しますのが市民センターなどはさう大きな影響というものはきた  
らないと思います。

これを作りますれば維持管理というものについて相当の額が年々反

おせられていく、これらも考えなければならぬだろう。こういう面等をよく考慮し、まゝでまゝ本市は財政的に負い、のだから今これをやうなればならぬというものからかかていかなければならぬ。市民セクターというものは考へるべきではなかったか。こういうふうに思ふ。豫果ともやはりあつて、先緩急度というものをばかつてこういうようになつてつゞいてきた。これだけ中へ還つて終りませう。

○ニハ番一山田教字 君

八四ページ十九節有料道路の利子差額補助金というものがござります。これがこれに関連して有料道路は県道を走るのに料金を取られるわけですが、これに打つて市が今までどういう態度できたか。これに打つる今まで市でやられたことを散々もらつたと思ひます。それから九一ページ市営住宅に関連し、まゝで今まで市営住宅に長期に入つてゐた人、そういう人、打つておいて下つた例がござりますが、また将来長期に入つた人あるいは条件さえかゝればお返し

げするといふ一つの根拠がございますか、それから四ページ  
五ヶ即房南中學校に於て予算が訂上されておりますが、これ  
は合併構想の一環として、いわゆる第一校として建築費を租人だ  
のかどうかそれを聞きたい。

。秘書課長（小倉澄男君）

市長方によりまして、県の道路建設課に陳情し、まゝた経過を  
申して下す。

有料道路ができ、まゝた当初、神戸から入るゲートの問題ござ  
います。あのゲートを通つて、相の海、富崎に入る人たちが、それ  
からさらにゲートの近所の神戸、大神宮部落の人たちが、そう  
いう人たちが、今まで県道であつたものを通るたびに金を取ら  
れるとは、ということ。地元の人たちから市長に話しかけ、まゝた  
市長は早速、工本事務所長さんとも相談した。まゝた結局、地  
元民から県知事宛に陳情書を提出した結果、大神宮と相

の浜それから部落の名前は忘れまいたが、日常生活のためにあの道路を通るといふ密接の關係がある方たちの通行手形と申しますか交付されまして現在に至っております。なおその後聞かるところによりますと安房神社の脇を通つてしまふといふようなことから道路公団の方でも考えまして補助ゲートを設けたやうでございます。それにしましては相の浜にいく人が補助ゲートを通過しまして相の浜部落に入る道路を横断するだけでも取るのだという方針を聞きまして早速市長名によりまして道路建設課におもむきまゐつてそういうことは変ではなかつたかということをやりました結果、現在のところは補助ゲートをパスしたときは一応お金を払つてもううのだ、相浜から帰るときに金を払い戻すという方法を取つておるやうでございます。

富崎を通つて白浜に行く方は富崎地区から白浜に行く有料道路を通るといふことでお払いしていただかなければならぬといふことだ



現任進人であるようにござります。

。財政課長一長谷川広治君。

市営住宅関係に於て御説明申しにござります。

市営住宅と申しましては市で管理いたします住宅は公営住宅法によりまして住宅を管理しております。この払い下げ関係につきましては住宅法の定めるところによりまして建設大臣の許可が必要になつております。

町営、建設者、あるいは町居住者との条件が全部満たされれば払い下げをいたしてもいいのではなかと考へておりますし、またかつて二回はかり払い下げをいたした事実もござります。

大蔵省、建設省の考へ方としては建設から十年から十三年程度たたなければ払い下げはこのまゝくなくという考へ方を持っております。ようござります。

の教育長（押本禧兎君）

房南中學校の問題についてお答えいたします。

全体的に申しますと市内七つの中學校の統合計画というものが、房南中學校は七つの學校を四校に統合する。こういうことでしたわけでございますので、その意味では統合の環の中であるというところでござりますが、**実質的に**いいますと全く統合していませんで、すでに房南中學校発足のときに統合というふうなことでございまして、**実質的には統合**というところでなく、今度の改築も、今度の學校そのものも進んでいく。こういう形になろうかと思っております。

の二八番（山田敬宇君）

有料道路のことは一応わかりましたが、館山市内に住んでおる人が、たとへども有料道路を通る意思もなく、道路を迂回して通らなければならぬ、ということば間違っておるのではなからうかと思っております。今後より以上考えて、果公団とも話し合つていただきたい。これは要望でございます。

市営住宅はよくわかりました。

それから房南中学校はもう一つ聞きたいんですが房南中学校が合併構想の一環としてなされたという事のように受け取れますか合併構想に對しましてこの前の議会でも話が出ました通り合併構想に對するその後の計画あるは実施要領あるは長期計画というふうないろいろなことが考えられておりますが教育委員会では具体的にその後の計画がございませうかありましたら合併に對する概念でも教えてほしい。

○教育長（押本禧逸君）

中学校の統合はその出発というものは生徒数かだんだん減ってきたので中学校の教育をしていきますのに、負担定数、こういうものの減ちとかいうことで教育の内容等の向上のためにはどうしても適正な数の生徒数、こういうものが必要なわけがございませう。

そういうことで適正規模の学校を作るということでお話ししてきたわ

けでござりまするが四つというような構想でござりますが現在の一中はその  
まま残します。

房南中学校も現在のままの形で現在十学級ですが将来は七位に  
なるわけでござりますがそれでも学級数としては各年二学級以上あ  
るわけでござりまする。あとい中、西岬中、豊房中、神奈中、四中、これをあ  
と二校にするわけでござりまするけれども一応今のところでは二中と四中で  
一つの中、西岬中と豊房中、神奈中、それから二中の中の館山地  
区で二つの中学、こういうことで四つの中学校を作っていく。

こういう線が委員会として打ち出されておいて順序といたし  
まうては房南中学校を校舎建築とくは第一、その次に時期を  
見まうと館山と西岬、豊房、神奈の中学校を建築したいという  
順序だけは委員会としても定めておるわけでござりまする。

〇二八番の山田教字君一

私毎年学校視察をやってまいりましたがとにかく合併することは容易

ではない。かつて学校を二つに割ったということは聞いたことはありませんが、  
いずれにしても学区を分けて新しい中学校を作るというような考  
方、これは賛成も不賛成もいふまじか世論の反響がなくては絶対で  
きないと思います。そういう案で十分計画を立ててほしい。すでに  
房南中学校は建設を予算化し、まずと合併構想の第一歩とい  
うことになる。重大な重義を背負うておる問題だ。もちろんこれは私も  
第一中学校の近くですが第一中学校にしてもある程度考え方を持  
っております。いずれにしても合併構想に對する教育委員会が地に  
足を踏んでいかないと合併は非常に困難なものになると思  
います。それに對する具体的な考へ方がまた立っておられ  
る人ですか。例えは、何年度にどういふふうにするとか、  
もちろん一人一人にやることもできない、  
わけですが具体的に研究機関を設けて、すでに具  
体的な第一歩をやっているのだというよう  
なことがござい  
ますか。

協議会というようなものを作って原案ができて何年度にどう  
をやる。

どういふふうにするというものが何かございますか。協議会を作っても協議会そのものが世論ではないということを銘記していただきたいと思う。ただいま聞きたのは具体的に合併に打する第一歩として房南中學校を建築した。その次にやることは何年にとこをやるといふことを研究されてあるのか。お聞きしたい。

。教育長（押本 祐逸 君）

ただいま御発言のようにこの問題は下へんな問題だと教育委員会でも承知しておるわけですが、何にいたしてもこれが成功するか、否かは地元の方々の懇談を強く持ちましてそれらの意見を調整しつつ納得したいていくかならうかとございます。

今のところまだ今後統合していく順序みたいなものはきまっておらず、すけれども人は方法をもって地元の方々の話し合いを申し上げて統合への道を進めていくかという具体的に四年度のはじめから考えていかなければならぬ。

こういうことは考えておりますけれども、具体的なことにはまだ至  
っておりません。

○副議長（松本藤太郎君）

暫時休憩いたします。

午前十一時

四分

休憩

午前十一時

二分三十分

再開

○副議長（松本藤太郎君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○三四番（山本 昇君）

二三の案について御説明願いたいと思っております。

第一案三九ページ諸費八節報償費その中に姉妹都有滋産

報償費として百万組んであります。このことにつきましては、先般の説

明にもあります。たがもろろ姉妹都市委員会の議を経て取  
決的にはきめられたこととは存じますが、予算編成の所案におきまし  
て当局の構想がありまうたら二の構構を示していただきたいと思ひ  
ます。

次に報償費の中に交通相談関係の弁護士謝礼として二万と  
いう額が盛られておりまうけれども、どうも弁護士の謝礼として二  
万という額に疑念を持つわけです。弁護士を委嘱する場合にその  
都度お願いするのがあるか、あらかじめ所定の方を委嘱しておいてその方に  
年間を通じてこれだけの報償費を払うのか、それとともに交通相  
談所というものの考え方、これも合わせて御説明をいただければ結構  
だと思います。

次に五、六ページ、民生費の関係におきまうて児童福祉費の中に  
負担金補助及び交付金というものがございまして、スポーツクラブの  
用具の購入とかその他盛られておりますが、少くとも現在、青サ



年の育成が強く呼ばれ、その必要性を強調しております。

そうしたときにおいていろいろな各地区におきまして部落単位に行事が行なわれておりますが、こうしたものに對する補助金であるのか、あるいは一つの団体、野球あるいは足球あるいは卓球、いろいろなものを通じて青少年の育成という線を強く打ち出してその趣旨、目的を達成するために行っている団体がござりますが、こうしたものに對してどのようにお考えになつておるのか、この点をお示し願ひたいと思ひます。

次に第三点といたしまして五パーセント処理でござります。

この点についで助役さんにお伺ひするのでござります。

先般行なわれました四十年度の決算審査特別委員会におきましてこの問題が強く論議されまして、特に二日ほど早く解決してほい、水の問題につきましても市長の政治力を最大限に發揮して解決してほい、ということも要望された点でござります。もちろんこれは

単に決算委員会における主張のみならず、議会全般の気持であらうと存じます。

そこで私もこの問題につきまゝ、当局の態度に注目をしておるわけでございますが、その彼私の聞いた話では早速当局におきまゝこの問題を取り上げ、折衝しておるというふうなことを聞いておりますが、地元の折衝の内容につきまゝとさしてかえらない限りお示しいただければ幸いです。と思ひますので、この長助様さんの方から御答弁願ひたいと思ひます。

次に九ページ、教育費の關係におきまゝ、特に社会教育の面についてお伺ひたいのでござります。

社会教育の面におきまゝ、体育という面を強く打ち出されまゝ、この育成に努めておつてくださるというふうなことは、私も一応感謝の意を表わす次第でござります。しかしながら、もう一丁限られた予算内でやむを得ないことであります。が、体育というものに打って委員

会としてどのような認識を持ちどのような今後方針であるかに  
のか特に体育協会に打ちます委員会としての基本的考えをお示し  
ただければ幸いです。なお教育費におきましてこれまで決算委員  
会において強く論議された点であります。が需用費におきまして  
小学校あるいは中学校におきましてたいぶ増額はされておるよう  
でございます。しかしながら先般の教育長さんの御説明によりま  
するととにかく最限がこれだ。設備いろいろな拡大という面にお  
限度がこれだというような御答弁がありましてもうともたと思  
いいます。ある程度の基準というものがあつてはなからうか。  
その基準に達しそれ以上のものにつきまては。これまた別個に  
考へていただきたいというような意見も出されたことは御承知の  
通りであります。

これに打ちまして本年度小学校並びに中学校に打ちます需用費  
これで十分満足できるものであるか。満足できるとするならばこれに

よって常にいくつありき。父兄の負担が軽減される見込みがあるのか。いかに市費を最大にふくめても現地におきまうては実際父兄負担軽減というものがなされてないので現実の姿であります。これをどのように解決し、どのように調整していく考えであるか。この点教育長さんからとて御説明願いたうと思ひます。

秘書課長（小倉澄男君）

第一点の姉妹市派遣費についてお答えいたしき。

先般市長の団長として入名の者が姉妹市を訪問した。いま一た際に伺うの市長並びに関係者とうとうお話を聞いた。いま一た結果市民の中からベリニハムを訪問して文化交流という面に資したうと思ひつれども、きたときにめんどうを見ていただけるかというふやうなことを聞いたのであります。それにつまゝしてぜひ派遣していただきたう、そのときにできるだけの御接待お世話を申し上げます。とう御返事をいただきたうので市長

それにつきまゝで感激いたしました。早速これを具体的な方法に移すという事で特に本年は百万円を計上いたしました。

その百万円の根拠と申しますのは、往復航空運賃が三丁数万円でございしますが、航空運賃に等しいものを前で持つてやろうと、はなしかというふうなことで、それについて何人位いたうりだろうかという事につきまゝ、あまり多くてもいいので三人位を、ということと、三丁万三人分、九十万円、その他十万円雑費というふうなことで、百万円計上いたしました。まず市会の御同意を得まゝで、かねかね関心をほうぐいたしております。姉妹市委員会にはかりまゝで市民の選考方法等につきまゝで十分協議したしまして三人の代表を選べたというふうな意思で今回提案した次第でございします。

具体的にこういう人というふうな構想はございせんが、青年、学校教育に従事するものとか、そういうものを主体として三人を選

考していきたい。これもあくまでも決議がなされてから委員会に相談してそこで方法等は決まっていきたい。実はこれをやっております。先進都市がございまして、参考方法等を早速調査して姉妹市委員会にお知らせする。参考資料としたいと考えております。

商工観光課長（小沢正治君）

第二点の交通相談の弁護士に対する謝礼の十二万円でございますが、昨年度で交通安全協会の連合会と交通相談を取りにございまして各地区を巡回してきたという事を事務改善によつて本市が全般的な市民相談を一つの窓口で受け付けてやっております。それらのデーターからいたしますと現在まで専門的に弁護士を必要とする問題は具体的に起きておりません。

しかしながら県の段階で巡回相談に参りますと県下一円を対象とする。先般も二十名の相談の中で館山市民というのは約半

数でございます。館山市民のサービスは市が直接行なう態  
勢を持つべきであろう。ということでご般さうに市民相談室  
の中へ積極的にこの問題を取り上げるというＰＲを行ないたか  
う専門的な交通相談を行なう必要が生じた場合、予算がな  
いでやれないということでご困るという考え方から一応一三万円の数字  
を訂正いたしましたけれども、これは特定の弁護士に半額でお  
願ひすることではなくて、その時、時案においてお願ひす  
るという計画でございます。これが残念ながら事故がふえて  
専任の弁護士をお願ひしておかなければ間に合はないという線が  
起きた場合にその時案で改めて考える。そういう方針でございます。  
。福祉事務所長（鶴沢 實 覚 君）

五、六ページ九節の負担金の中のスポーツクラブ用具購入費  
補助金 三万五千元に上り、御説明中一にございます。

この三万五千元は、船舶の早起き野球、神戸の剣道クラブ、所定の剣

道々クラブの三クラブに訂して十萬ずつ補助しようというものでござい  
ます。これは四十年間から毎年やつておりますので四十二年度は三  
三クラブを対象として補助するわけでございしますが、クラブ十萬内の  
うち五萬円が県の補助金同額を市が出して補助しようという  
ものでございしますが、これは県ワケもございしますので本年度は三ク  
ラブということと、その他にもまだ市内に相当クラブがございすけれ  
ども、もう一つたものに訂しては、順次県の方のワケとにらみ合  
せて補助していきたいというふうに考えております。

○市長職務代理者助役（小島武男君）

し尿処理関係について申し上げます。

藤原にあります衛生処理場の用水につきまゝては、議会の皆  
さま方はじめ特に清掃審議会の委員の方々の非常な御心配を  
得てゐるわけでございしますが、この点につきまゝては私どもとして  
も、過去数回にわたりにまいりて、地元と折衝を重ねてきてお



るわけでございますがなかなか表面からの交渉ではまとまら  
ないで、おつたことは御承知の通りでございます。しかし仕事は仕  
事だけに現実の問題としてあつたに過ぎない以上農家の農耕  
用水に支障をきたさない時期において使うということについては、  
理屈からいへば合理性があるわけでございますが一部感情的な  
面によつてそれができないという状況はわけでございますが  
このことについては先般の決算委員長の報告もございまして、  
非常に皆さんの心配にきたえる意味から申しましてもう一回  
さらにもう一回と重ねてやるつもりでございまして市長に連  
絡をとりましたところ、もう一回内面的に折衝してくれ  
という電話がございましてこれは非公式でございしますが、別  
取り扱ひの伊藤課長を通じて内交渉の線にやっておりますが、  
非常に非常の好転のまじしが見えておりますのでもう一二  
回した後において正式な話し合ひをして多年皆さんの御

心配の面を解消すると同時に処理場自体の運行に支障のないようにしていきたい。かように考えます。

○社会教育課長（源間利一君）

体育協会に対する基本的な考え方についてとてごさいます。が本市の社会体育を考えます。際に伝統と歴史を構ったところの二部門によって構成されております。

体育協会の存在を抜きにしては本市の社会体育というものを考えるわけには参らない。それほどに本市の体育協会の持つてゐる社会体育に対する推進力というものを高く評価いたします。このような考え方になっております。

特に年間を通じて行なわれます体育関係行事の運営に對する全面的協力さらにその行事の内容、技術向上面に協会の役員の指導。これもまた感謝せずにはいられないという考えを持っております。

現在社会教育団体が五つあるわけでございますが、その中で館山市体育協会が持つところの位置は非常に大事でございます。応分の補助措置を取って参りたい。そういう意味合から、本年は協会補助金といたしまして四十三万五千円並びに郡の体協の中にございます安房地方の体育指員の連絡会の負担金で五千円計上してあるわけでございます。

### ○教育長（押本禧逸 君）

父兄負担軽減の問題についてお答えいたします。

終戦後からわが国の教育はとほし、各市町村の予算の中にPTAの力である部面が満たされつつ現在に至っております。特に本市におきまして需用費を昭和三十五年と四十六年度を比較して見ますと、小中学校では三十五年度を一〇〇としますと、四十七年度では三一・八、中学校では同じく三十五

年を二〇〇にいますと四十二年は二九一三という教が出てくるわけでございます。物価の伸び率があるわけでございます。けれども非常に充実にきてゐるわけでございます。

本年度特に父兄負担軽減という問題につきまゝては校長会、PTA会長さんの集まりを持ちましてPTA予算について特に軽減するようにということをお願いしてゐるわけでございます。

四十二年度特に取上げたいものを申上げますと、盛夏夏水泳のバスに付する補助金に付かゝりて秋急自動車道の借りに付料というものが今までPTA等であつてゐたわけでございます。これを市の教育予算として計上しよう。

あるいは市の文化祭等に遠い地正からバス等できますのでそれらに付しても市費で運搬しよう。さらに研究会、講習会の講師の旅費というものも本年新しくお願いすることにな

っております。

そういうことで幾つかの父兄員軽減の予算を組んでゐるわけでございます。

○三四番へ山本昇君

第一桌の姉妹市派遣まことに結構な企画でありぜひ実現してくほしい。かように考えまして基本構想とりにまゐつて了解いたしました。

第二桌の交通相談所の関係でございますがまことに交通事情が多におりにおいて市民相談室の事業の一つとしてやることはまことに結構でございます。

私はこういう相談が一件もなすことを心から折念するわけでございますが現実といたしましてはこういうこともできることが当然予想されますのでそのときに本常に市民の立場に立つてできるだけ安易な気持ちで相談できるように方策を取つていただきたい。

ことをお願いしておきます。

次にスポーツ団体に対する補助金でございますが、具体的にお示し  
がございまして、これが決定につきましても団体からの申請に基づいて  
審査した結果決定したのか、あるいは当局においてあらかじめこ  
うしたことをやったのか、もし申請によって決定したとするならば  
四十二年度にどの程度の申請があったか、この点もう一ぺんお示  
しいただきたいと思っております。

さらにし尿処理場の問題でございますが、ただいま御説明がござ  
いまして、私も非常に敬意を表する次第でございます。

一日も早く本問題が解決されるよう御努力をいたしましたように  
切にお願い申し上げます。

さらに体育関係でございますが、委員会としては体育協  
会に対して非常な比重を考へ、これが育成強化に努めて  
おるといふ、この努力に対しては敬意を表します。

しかしながら予算面におきまして年間四十何万の予算で果して鶴山市の体育協会が果して完全な運営ができると思つてやつたのかあるいは限られた予算の中ぐやむなくこうやったかほかの市の体育協会の補助金を見ますると相当額の補助金が出ております。この実態を知つておるのであえて質問申し上げたわけでございます。非常にえー予算の中からいほつた努力かは認めますが体育協会に對する比重を考えておることから考えますと予算が甘い。

今後どのように考えておるかもう一人お示しただきたい。さらに教育長さんの答弁でございしますが四十二年度予算におきましてもいろいろ父兄負担のために経費を支出しておるといふことにつきましても一応認めます。しかしながら市長さんが公開の席上において私は父兄負担軽減のためにこういう努力をしておるのだということとを常にいつております。

ところが現実問題として父兄の立場になると市長が金をあし  
てくれているのにわれわれの負担が軽くなるのたうかという  
ことを考えてゐる。

市長うそをいつてゐるのではなかつたかということになりかねない。

かつて押本教育長さんがＴＡの会費を値上げしないことが物  
価高の今日におりてせめて値下げのあれになるのだということ  
いったことを覚えております。まだそういう考えでゐられるか  
どうか。そういう考えでゐるとすればとんでもない。そういう考  
えで指導されてゐるか。思ひ切つて市長がこれだけ金を出した  
のだからぜひ他の園におりて減らしてもらいた。

こういう強力な指導される予定が、今後の御指導をどの  
ように考えておられるか。もう一ぺん御説明いただきたいと  
思ひます。



お答え申し上げます。体育協会に打する補助金の問題でございますが、年度当初ということとかように計にお願ひするものでござりますが、御指摘の案につきまゝては財政事業の許可範囲で議会の承認を得た上で今後とも善処して参りたいかようにお答え申し上げます。

教育長（押本禧造）君

PTA会費、父兄負担軽減という問題でございますが、PTAの総会というのが近くあるわけでございます。それ以前にまず校長先生方によく父兄負担軽減の趣旨を話しまして、さらにPTAの会長さんと協議いたしまして、いろいろ父兄負担を軽減する内容についての話し合いがあったわけでございます。けれどもあとでPTAの予算というものを各PTAに委員会集めて再配布する。そうして各PTAが実態をつかんで、そうして会費の値下げあるいはその内容の検討の資料によう

という話にもあたわけでございまして今後ア・イの会長会議  
校長会そういうことを通じまして実情を聞きさうにいろいろ  
研究し、討議してこの線を進めていきたいと思ふわけござ  
います。

○福祉事務所長（鶴沢貴寛君）

お答え申しにございます。この三クラブはそれぞれ申請のあったもの  
でございまして現在のところこれ以外にまだ私のとこに出てきて  
おりません。

○三四番（山本昇君）

いろいろ不満足な点がございしますが社会教育課長さんの御答  
弁は今後財政の許す限り職金へ承認を得て善処したい。  
ということは現時点における四十何万では体育協会の運営に  
は不足だという認識に立ってさうにお考えだ。かように考え  
ます。今後善処を私見申すていきたいと思ひます。

また教育長さんの努力またその方針につきまゝでは私あえて異議をとなえるものではありません。せいともやっていたきた!

先ほど申しにげましたように市長さんがあれほどいつておるにもかかわらず現実問題として負担が軽減されてな」というのは、市長うそつきだ。ひいては政治不信を起すような事態があつてはならぬ。かような観念からあえて私申し上げるのでございましてとにかく市長がいかによつても一般の負担が軽減されるというならば私は父兄の負担軽減のためにこうやったのだということはいわぬいような方法を取るべきではなからうか。

かように考える次第でございまして、この点よく市長さんとも話し合ひの上善処してくいたたくように切にお願ひ申し上げる次第でござります。

なお鶴沢課長さんの答弁で今後は申請があつた場合には十分御考慮願へるものとかように解釈いたしました。一応私の

質問は以上で行う切りましたと思ひます。

○副議長（松本藤太郎君）

午前の会議はこれにて休憩といたします。

午後零時 八分 休憩

午後一時 五分 再開

○副議長（松本藤太郎君）

午後の出席議員数 二十四名

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第三号の歳入の部の質疑を継続いたします。

○二番（岩塚善三君）

一五ページの二目に關連いたしまして先ほどスポーツ教室の用  
具について質問されておいたようにござりますが私は施設について

お尋ねいたしましたのであります。

スポーツ教室を開催して健全体育の奨励をなさておる。大へん結構なことでありますがその中の弓道についてこれも大へん普及をいたしました。ところで弓道とか剣道などは学校の施設を借りてやれますが弓道場がほとんどないために大へん困っておりますのでございませう。

聞くと弓道では先に弓道の団体の代表が市長に陳情したそうでありませう。市長はその善処を約束したそうでございませうがせっかく普及に努めながら現在ではまことに残念でございませう。ので今後において弓道場の施設をする御意思があるかどうか。できれば市民センターの敷地内に作ったらどうかと思うわけがございませうが、この点についてお尋ねいたします。

第二点としてまいって、ページ社会教育統務費に關連いたしました近時文化財の保護ということが強く所望されて

おります。それに打つても当市においてはこの面に打する予算がほとんどない。残念に思いますがともあれ文化財保護の上に於いて大きな役割を担つてこの館山市史の編さん特に歴史編については一朝にしてできるものではなし。今から始めてこれの予算を計上してこれが作成に當るべきだと思ふが執行部のこれに打するお考えを聞きたい。聞くとこうでは近隣市町村においては現在作りつつあるところが多いそうでござりますかこの案についてお尋ねをいたしましたと思ひます。

もう一点としまして六五ページの三目四節の使用料及び負債料三万円についてその説明欄で野泊とう借りヒゲ料とありますかこれはどのものでござりますか教えていただきましたと思ひます。

。社会教育課長（源間利一君）

スポーツ教室開設によって広く市民の体育普及の場を願う

ということを計画して参つておるわけでございますが遺憾ながら  
体育施設につきましても現在市営プールを陳列しては学校施  
設に依存せざるを得ないという段階の中で指導者あるいは  
受講者に対してても非常な御迷惑をおかけしておるわけで  
ございます。これが対策として昨来統合グラウンドありは  
それに類似した施設ということを長期構想の中で考へて  
おるわけでございますが特に弓道場につきましても四十年  
度実施の際安房高の弓道場をお借りしたに付て二  
トラブルもあつたように伺っておりますが幸い四一年度は  
安房高の弓道部関係者の非常な御理解、御協力をいた  
さまゝてこのコースの完了を見たわけであります。

そういった甲でスポーツ教室開設中だけでなく弓道人口の  
増加ということも先ほどお話しがございましたが市長への陳情  
というところで何回か私どもも話し合ひをする機会があつたことは

事実でございます。

市営弓道場設置につきまゝては他の球技等と関連いたしまゝて特に三カ年計画で市民センターが進められていくという構想の中で御指摘いただきまゝに案につきまゝてはセンターの建設委員会を通じまゝてその内容の吟味特に建物外用地も若干ございますので委員会の答申あるいは御意見を待ちまゝてその線にそつうよう進めて参りたい。かような考へ方を持つておるわけでございます。

第三点でございますが文化財保護の補助金の問題でございますが従来市の文化財保護条例の中で文化財の保護については所有者、指定文化財を持つておる方の負担とする。

ただし特殊な事情がある場合、市が応分の措置を講ずるという規定に基づいて特に四十二年度におきまゝては刀剣の石井さん、唐棧職の有藤さんに行しめて、応分の助成を



するということでご五万円お願ひしております以上お答之申し上げます。

○衛生施設課長（吉田耕一君）

ふたページの使用料賃借料の件でございますがこれは取処理場の施設がまだ完全にごき得ません。当時に戦時中の防空ごうの廃ごうも借用いたしましてそこに漏れなごうな施設をいたしまして一収を投棄した。

なお当時の概要を申し上げますと完全に施設ができた後におさまってござるだけ早い機会にそこを掃除いたしましてお返しするごう話し合ひになっております。そうして面がまだ全部きれひになりましてごで現在また賃借料に上げまして借りてある場所とては真倉に一カ所沼に一カ所の二カ所でございます。○二番（石塚孝三君）

第一点につきましてはご公道場の早期実現に努力していただ

きたいことを要望いたしまして解いたします。

第二点につきまゝではお答えが違つておりまして私は文化財保護の上に於いて大きな役割を持つ館山市史の編さん中でも歴史編の作式についてどううふうに考へてゐるか一朝一夕にはできません。相当の日時を要する問題だらうと思ひますがこれは一日延びれば日市史の編さんに必要な文献的なものが失なわれていくということがあるわけでございまして非常に重要な問題であると思ひうわけでありまするのでこの点についてどのように考へておるかお尋ねしたわけでござります。

第三点でございするが防空ごうの借り受けをみるところは習と真倉に二カ所ずつというところでございしますが私は真倉の点についてもう少しお尋ねしたいと思ひうわけでござります。

先の補正予算でも切刻の不法投棄について言及しまして執行部の所信をただし来たかところではただいま御説明いたたい

た沼の貯溜についての黄金化について聞くとそこでは先日地元  
民の代表が所管課に強く抗議したそうでしたまた新聞に  
も取り上げられまして執行部は十分御承知のことと  
思いますが現在上真倉地区は黄金恐怖症に見舞わ  
れておるといってもいいと思う。事実ひどいものであります。  
この問題はひとりに真倉地区の問題ではないと申しま  
すのは切割不法投棄の下には井戸を壊った穴があります。  
これが水源池につながっておりましてまた今申しま  
した貯溜というからしみ出るるところの1区によって現在も  
田が耕作不能と思われろ事態に見舞われております。  
また野水池も黄色くかわっております。これが流れて潮  
入川の上流に入っております。この点では何年か前にそう  
いうことがあって稲作が不作になりそれに對する損害賠  
償を支払ったという経緯があるそうでございますがこれが

再び繰り返されてゐる。これが現実のようであり、

そうしますとこれは今いったような水源池につなかつてゐる  
あるいは潮入川に入つてゐるといふことは一上真倉地区の  
問題ではない。われわれにも大きな問題である。これは何と  
かすみやかな解決方法を取らなければ船のチャーター位にお  
いてこれを防ぐといふことには参らなれと思ひます。

ところでこの問題はよくきたるところのものばかりに  
処理場の故障といふところからこつていふものがあつてきたわ  
けでござりますがこれは機械でござりまするから今後において  
もこつていふことはあり得る。これは考えなければならぬ。

その点に打つて恒久的な考へ方、いわゆる一か出るすうな  
ものでなくてそれに耐えるような野溜槽を建設する  
とか何とかそういう対策がなければならぬと思ふので  
あります。この点についてどのようにお考へになつてゐるかお尋ね

いたいたいと思ひます。

○教育長（押本禧逸 君）

館山市史の編纂の件でございしますが御趣旨はまことに館山市の社会教育の面から考えましてもきつめて重要なものであるわけでございまして長期計画にも市史への関心を高めるといふハツの重要目標の中にかづえているわけでございまして、しかしまだいつどんな方法というところまで盛り上つてゐないわけでございしますけれどもなるべく近い将来におきましてこれへの出版をいたしたいと思つてゐるわけでございします。

○衛生施設課長（吉田耕一 君）

二臭目につきまゝにお答へ申し上げます。御指摘をいただいております。不法投棄の問題あるいは借り上げておりますごうの不完全の臭等につきまゝに皆さま方に御迷惑をおかけしてゐる臭につきまゝでは深くおわび申し上げるわけでございします。

ただ不法投棄の問題等については徹底的に究明いたしまして  
 こうしたことのなような方法へと逐次努力をしておるわけであ  
 ります。なお借りにげどうの問題でございますが今後施設の  
 運転と相まらまして少しづつでも取り出しをいたしまして御  
 迷惑のかからぬような方法を講じて参りたいと考えておる  
 わけでございます。なおそうした施設につきましてどうを建  
 設するとか完全なものを作る考えがあるかということではござい  
 ますが現段階では陸上のごう捨て場というものが困難であると  
 考えておるわけでございます。

従いましてもし御指摘のような事態が起きたとすれば船に  
 よりまず海上投棄というものが一番手取り早くて皆さんに  
 御迷惑のかかる部分も少ないのではなからうかという考えを持てお  
 ります。従いましてもこの建設という考えは今の時点におき  
 ましては考えておりません。

〇ニニ番（岩塚喜三君）

第三点について再度お伺いするわけですが、これまでもこの問題についてはよくいほど取り上げてきた。そのために今後そういうことのないようにいたします。といつては御答弁なさって、いますか、それが残念ながら何回も繰り返されておるのか、実情です。ところで業者を呼んで注意をなさる。なるほど業者の方ばそれに打って反者なさつておることを思ひますか、おそれなく私は従業員が、お先に、おして卑劣な言葉でいうならば、私腹をニヤすために不法投棄をするのでは、ないか、従つて業者自身は、こういうことを知らぬのか、私はそう思う。従つてそういう対策を立てない限り、私は不法投棄という問題は解決しないというふうに考えるわけです。

それから機械です。かういつにわけるか、いれたいというところに打って、運搬船のキーターにおして、これに充てていくのだとおっしゃるわけ

ともチャーターするには相手のあることです。都合よくチャーターできるならいいですよ。それには相当日時が必要でしょう。ところがい尿の汲み取りは毎日やらなければならぬ。その間に時間的開きがある。こういう問題にぶつかってくる危険率が非常に多い。

ごすかう現社のし尿処理場のところでもいって、傾斜面のところにはから投棄するような貯溜槽を鉄筋コンクリートで作って下の方から抜き出すような方法をしておけば解決できると思う。ただ口先だけあるいは簡単な考え方からこの問題を放棄すべきではないと私は思う。

この点について再度所信をお伺いしたい。

なお第二点でございますが、ただいまの御答弁では市史の編纂人に矢野の盛りにりてを待つてゐるとおっしゃるけれども、矢野の盛りにりてを必要とする人ですか、為政者がやろうとすれば



できることでしょう。市史の編さんに適するように入らうず  
おれた人たちがたくさんいる。そういう人たちの動員すればさう  
むずかしくない。非常に長い年月を要しますので今からすり予  
算でこれから訂正して取りかかるときはなつか、私はさう思っています。  
二、又再度お尋ねしたいと思っています。

○衛生施設課長（吉田耕一君）

お答之申し上げます。ただいまいろいろ御意見も伺いましたし  
私どもの考之方も申し上げたわけでございますが、ただ簡単な  
にこれを取り扱っておるという問題ではないということだけを  
御承知いただきしたいと思います。

ただいま場内に大きな槽を作つてそこにに入れておけばさう御指  
導があつたわけでございますがなかなかその線ですえ困難であ  
るとさうふうに見えるわけでございます。実際に現在でもくさり  
とかいろいろ指摘を受けてゐるわけでございます。場内に無蓋の

槽を生の尿管を投入しておくということはおそらく反対等によつて実現が困難ではなかと考へます。なおそうした線が可能であるとすれば今後いろいろ検討して態度をきめていきたいと考へております。

○教育長（押本禧免一君）

市史編さんのことでござりますが今ただちにとうわけにいきまへんのので市の教育委員会できまゝとめまゝそれから出飛していきたい。こういう氣勢を持つわけではござります。

○二二番（君塚喜三君）

二点につきまゝては了解いたしました。

三点の問題でござりますが私は無蓋貯溜槽を作れと申してはたわけではない。マンホール式のものを作るべきであつて無蓋のものを作りまゐたらうさうてたまりません。

そういうことを申し上げておるのではないので御承知願ひたい。

現在すでにこの件にわたる田、これについて耕作不能、これに於て当然損害賠償を払わなければならぬと思ひますが、これについてどう  
いう考えをお持ちであるのか、この点について、ただしておきたい。

○衛生施設課長（吉田耕一君）

お答之申しに致します。さうからの漏水等によりまして御迷惑を  
かけております耕地に於ては、話し合ひによりまして補償、話し合つて解決、御承りいただきたい。このように考へて  
ゐる次第でございます。

○二番（石井正君）

三五ページ財産管理費の市有財産の確認事務の内容に  
於て御説明願ひたい。

次に六ページ火葬場の点に関連いたしました火葬場の舗  
装工事が途中まで完成しており、その先の道路拡張  
工事がまたなされていなく、ように見えますが、この土地買収の経過

そういう点に於て御説明願いたい。

なお現在まで完成いたしました舗装につきまゝであつて、あつて二から土砂を運ぶ運搬車の通行のために破損をしておりますが、このような破損の場合に市としてどのような補修の方法を考へておるか、この点についても御説明願いたい。

次にハセページ士不費の工事費の中に、棧橋ですけれども、二百五上つております。館山湾を果て埋め立てていろいろな施設をしようというやうな時代に、棧橋を果當にということと再三とばえておりましたか、その後の経過と申しますが、あるいは今後の見通しと申しますか、お考へをお聞きたいと思ひます。

次に教育費、九セページ七節の賃金で、給食調理員の賃金が出ておりますが、給食調理員の身分につきまゝ、再三質問をいたして参りましたか、また、この調理員の身分が安定して、お

らぬように認めておりますがこの点について御説明を願ひ  
たい。なお事務補佐員が二名増員になっておりまして昨年  
に続きまして四名になるわけですが非常に教育にとりまして  
ありがたいことではございます。これに関連いたしまして私昨年です  
が、通称質問で警備員の問題について市長にたてており  
ますが警備員の問題につきましては事務補佐員と同じよう  
に身分が果の身分になりますのでそこで知事が先日こちらに  
参りましてときに話し合ったことを覚えておりますがその際にも  
いろいろ問題が出たのでござりますが市としてはその後警備員の  
問題につきましてどのようなようにお考えになっておるかこの点をお伺い  
したい。

次に二〇ページ十三節委託料現場研究委託ということでは  
訂正されておりますがこれは内地留学という説明がございまし  
たが新しい項目のように見受けられますので具体的にお示し

願いたいと思います。

次に一〇三ページ新しい項目で備品購入の中で机腰掛を生徒の体位が向上したということとで新しいくするということですが、もう少し具体的に内容をお示しいただきたい。以上。

。財政課長（長谷川広治君）

財政管理費におきます賃金の内容でございますが昨年から引き続けて四十二年度も財産管理関係について仕事をいたしましたという点でございますがこれは臨時的な仕事でございますのでなお仕事の内容は現在まで四回等の作成とかあるいは登記関係の簡単な書類の正書と申しますがそういう用務が相当数ございまして臨時的な取組を一年間利用いたしていきたいという内容のものであります。

。衛生施設課長（吉田耕一君）

火葬場の関係でございますが現在火葬場に入りましてこの

茲思院の門のところから火葬場内の入口までの道路の幅  
幅をやつて九〇％程度でき上つて進めておるわけであ  
ります。その用地は現在まだ借りておりまして道路敷にア  
ス。茲思院の用地を借り上げまして設計をしていただきま  
す。その工事を進めておるわけであつて、舗装築につしま  
す。これは完全にでき得るという段階で進めておる状態  
であつて、借り上げ料につきましては火葬場内の敷地及び  
火葬場の入り口から火葬場内の敷地及び火葬場の入り口  
までの道路の面積を含めまして、その費用を借り上げて  
おるわけであつて、

○土木課長（新井重助君）

火葬場入口の道路でございまして、あれば工事を一応完  
了して、それでございまして、その後茲思院の付近から土  
砂の搬出がございまして、破損したというわけであつて、  
御承知の通り、幅員が非常に狭いので、自動車の輸  
送が同じ個所を往復し

くおる。工事そのものが簡易舗装でございますので一部地盤のゆるいところが壊れてしまったというわけで現在修理をいたそうと思っておりますが四十一年度の工事カ所ができました。んのでそれができ次第修理したいということでございます。

修繕の方法でございますが路盤のゆるいところでございますので路盤を掘り起こしまして割ぐり等で固めて仕上げてたいという考えを持っております。

次に館山桜橋の問題でございますがこれを県営に移したいというところでいろいろ奔走して参ったのであります。御承知の通り非常なさりまして夏の使用にやと耐えておるということでございます。もう一方方も喜んでもうえまさんで完全に修理した上でなうばというところも考えられませんが現在のところ移管の見通しはできておりません。

○学校教育課長（山根春夫君）



一番議員さんの御意見ございまして、おっしゃる通りです。

給食調理員のことではございしますが、学校給食というのは非常に大事なことでございまして、人だんにセンター方式にかわりつつあります。この調理員の身分がおおせの通り臨時であるというところで、不安定な身分であるわけでございします。

そこで前々から御意見もございまして、今年度何とか何人かを本雇りにというふうなわけで、委員会でも相談いたしまして、とりあえず永年の勤続者ですが、これについて二人だけお願いしようというふうになりまして、わけです。

給食も今はA型とC型の二通りやっております。A型というのは週五日間、完全給食を実施するわけでございまして、これは館山小学校と那古小学校でございします。C型というのは週三日間でございします。こちらの方は勤務日数が月にしても非常に少ないというふうなことで、職員としての優遇措置を受けることができない。

ない面がある。というのは学校関係の共済組合等も月二十三日以上の勤務ができなければならぬことになっておりますのでC型の方は無理でございます。A型の方はそういう為にもございましてこちらの方から身分の安定をはかっていくというわけです。人数が非常に少いわけでございますけれども今年は一八人だけお願いする運びになったわけでございます。

今後この面についてはさらに努力を続けていくことと思っております。

次に警備員でございますが現今の学校職員員の構成を見ますとますます女の先生が多くなってきたおる。そういうことでございまして規模学校になりますと宿日直のために一週間に二日三日も泊まらなければならぬという事態が生じようとしております。

これでもって警備員が問題になるわけでございますが本当に学校の完全警備をしようとすれば翌日の授業にさしかえがなくては

るということからの話だと思ひます。これは現在果て方でも何とか  
しなければならぬということを考えております。それらとタイア  
ップしたしまゝで本年度は市としても何らかの方法で警備員  
または宿日直の先生の軽減ということをはからなければならぬとい  
ふのではないかというようなことを検討中でござります。

その裏は御意見にそうように努力したいと思つております。  
次に内地留学の問題ですが四十一年度中に二中あたりに中  
学校の先生がきく一週間宿屋に泊つて子供と一緒に掃除まど  
やつて研究していかれた例もござります。

鶴山市もそういうようなことを前々から考えておつたわけで  
ございまして一週間から十日間位の實際に体を通つて相當の  
実績を上げてゐる学校の實態をつかんできてもうりたい。  
という意味合から、小学校から三位、中学校から二位出そ  
うではなかつか、いろいろの事情が許せばさうに多く出したいと思ひま

す。本来ならば一月という希望もござりまするがそれだけありますと、その学校の校業の面で支障がござりまするので支障のない限り本年度はその程度でやって見ようという事でござりまする。

机、腰掛の問題ですがこういう例がござりまする。ある学校で机を賤人だら規定の号数で作って持ってきた。ところが子供たちは机にあった腰掛を掛けるといざが入らないというのでござりまする。

今はわれわれと違つて下肢及び足が長くて胴が短かくなつてゐる。こういう関係で机をスチール製にかえて新しい机、腰掛を購入してそういう面の解消をはかうという事でござりまする。

○二番（石井 正君）

まず火葬場の件につきまゝはただいま作業中という事で了解します。が関連して火葬場の火葬のために臨時人大です。か、現在一人あそ二にするとお思います。が臨時に使うほどいそがしくな

るものか、あまりいい質問ではないからくれませんがその意をお伺いいたりわけです。

それから磯橋につきまゝでは「確認」たりことは今のお話を聞きまゝと当局ははっきりと勘管の気持はあるのだというように受け取ったわけでもそれでいいかどうか。

それから給食婦の問題ですが、今お答えを聞きまゝたわけでもこれは人事課長に答弁を求めたいと思うんですが、これは私が前からいろいろ引用して語りをしておるわけですが、今の答弁で勤続年限が長いからとか、Aでなければならぬとか、Cでなければならぬといふことではなく、昭和三十三年四月一日地方財政法及び同施行令の改正がなされた。それに伴って給食に従事する職員への身分の保障について文部省から通達されてゐる。関係法令を引用しますと「職員の身分を市町村立の学校の職員として発令しなければならぬ」といふふうになされてゐる。

わけです。それが今まで館山市においてば実施されていなりで  
今年になって二人するとか二丁二日以下だからリリなのとかその臭い  
に落ちないけれどもはつきり解明していただきたい。

それから警備員の問題につきまゝては努力するということ非常に  
ありがたいお話しですが千葉県下では市で行なっているのは市川  
とか船橋とか大きな市でこれは完全に市において実施してあり  
ます。

不更津においてばスモールスクールにおいて実施している。四日に  
一ぺんとか三日に一ぺんとか宿直のきつ、学校では警備員を置いて  
ある。これは館山市においてもできるのではないかとこれは予算が  
どうなういいますけれども不更津においては予算面では  
たいした心配はないといつてゐる。これは宿直料が出ております  
からあまり市に負担がなくてもできると把握しておりますのでこの  
点もう少し研究してすみやかに実施するように要望

するわけです。以上

。衛生施設課長（吉田耕一君）

火葬場におきます人夫賃金でござりますが現在一名の火葬夫を充てておるわけでござりますかやはり病氣あるいは所要等の休暇を取るために臨時に火葬夫を雇ひ上げると言う考え方ご大体年間二十五日程度という見方で一日二千円の計算で三万円計に上るわけではござります。

。土木課長（新井重助君）

税橋の件でお答之中にございます。

此条の潮入川から鶴山流に向いまして埋め立ての語も今議に上っておりまので多少の変化はございましょうけれども根本的な考え方からいきますと鶴山税橋を果に移してもうつたというのか私どもの本当の心組んでござります。

。人事課長（小沢正治君）

教育費の人事関係で私どもに答弁ということですが、御承知のように他の任命権者の関係は、一応長部局といたしましての総合調整の関係から多々するわけでござります。

学校におきまする給食あるいは警備関係の取負につきましても、前々から問題でもあるわけでござりますし、単に人だけの問題でございまして施設関係も含めての整備計画にうなかるわけでござりますので、そういう関係も十分織り込んでの将来計画という形の中で十分検討していくことが妥当ではなからうかと考えておるわけでござります。それにしても、長期間不安定な身分におられるという形からいたしましても、早晩解決すべき問題で、そういう意味で積極的にこの問題には取り組んで参りたい。

三のように考えております。



大体わかりまゝに付けられ、給食婦の身分の問題については、はつきりとうたわれ、おりますので、今になつて二人だということについておろすことがおこしく感ずるので、早急に法令の研究をなさつて、全員の身分を正社員にして、館山市の給食調理員の身分の安定をすゝやかにばるかよう、要望して終ります。

副議長（松本 藤太郎 君）

暫時休憩いたします。

午後二時

十二分

休憩

午後二時 三十七分

再開

副議長（松本 藤太郎 君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

二九番（鈴木 市藏 君）

一言だけ伺います。教育費でございますが、昨年の九月に  
 館野九重で給食の問題で陳情になつて議会で採択された。  
 十二月定例会においても船形で給食問題で陳情して採択  
 になつたんですが、現在の予算に對しては何のことばなんですか、この見  
 通しに對して教育長さんに伺います。はっきりとわかりやすく

教育長（押本 禮逸 君）

お答えいたします。給食問題は文部省でも県でもきつめて大  
 事な問題として設置の促進がなされてゐるわけでございます。

そういうこととこの設置に つきまゝては各学校別とセンター方式  
 という二通りあるわけでござります。これはその土地の事情と  
 施設設備定員の問題、運営の問題、こういうことから、さう  
 いう利害があるわけでございますが、それらのことも含めまして考  
 えなければならぬ。そういうことも、検討し、いろいろ先進地等  
 もよく実情調査しなければならぬ。こういうことでそれらに

つきまゝでは総務費の中の委員会の旅費事務局の中の旅費、こういうものも一応考えまゝて先進地の視察や資料等も集めてきて準備を着々進めていこうという段階でございます。

○二一番（江田徳太郎君）

九一ページ十七節公有財産購入費、三百万ばかりありますが、これは新年度建てる土地であるか、来年度に打しますことになるか、お伺いしたいと思います。

○建築課長（池田春雄君）

これは四十二年度に建てる場所の土地でございます。

○二一番（江田徳太郎君）

この土地はまだあると思いますすが、すぐあと買い受ける考えはないんですか。

○建築課長（池田春雄君）

元の厚生寮の跡を三年計画で逐次買っていく予定で、その  
四十三年度にまた次のところを払い下げ受ける予定になってお  
ります。そのように計画を提出してあります。

○六番へ秋山六三郎 君へ

社会教育関係に関連いたしまして質問いたしたと思ひます。  
この予算によりますと社会教育委員の手当が先例によつてきま  
つておりますので年額三千三百円になつております。その他の  
各種委員会は非常にたくさんあるのでござります。この委員の  
報酬というものが非常にバウンスが取れてないように考えられる  
のでござります。

この問題は社会教育関係だけでなく市全体としての委員会のお  
り方というものによつて考慮をばうわなければならぬ段階にま  
つておるのでないかということを考えられるのであります。

一例を上げますと社会教育委員の報酬は三千三百円、国保運営

審議会の委員は年額五千五百円ですか。こういうふうには差がある中に委員全開催状況、活動状況。こういうものを考へますと、社教委員のそれは非常に委員全を開催する回数も多いためあります。

あるいはそれよりも多い報酬をもらうような委員会でも年に一回とか全然開かない。こういうようなものもあるやに考えられるのであります。

この市全体の委員報酬というようなものについて、人事課長にお答へ願いたのでございしますが、そういうようなことを再検討して適正化するというお考えがあるかどうかということについて御質問申し上げます。

次に小学校費に関係したことが学校の防災、火災防止ということは非常に重大な問題でありまして、昨年の三月の定例会におきましても御質問申し上げてあるわけですが、これは館山小



のふ百というふうに記憶しており、一応各種委員会が勤務の  
状態に依りてバランスの取れた形で議会の議決をお願いして  
制定してあるわけでございますが、四十年の夏からそれが行な  
われてない点で、また各種委員会の活動の実態の差違等に  
かんがみまいていろいろ現時点で多少アンバランスが起きてい  
るという点も考えております。そういった関係で今年度あたり  
さらに再検討をしてアンバランスと確認されるものについては  
修正いたしまして客観的にバランスの取れた形へ改正を要  
するものは改正していきたい、このように考えます。

○消防本部次長（石渡 東君）

小学校費の方でお尋ねのようですが、問題は野水池でございます。  
すので、私お答えいたします。

四十二年度の当初予算の原案を作る段階におきまして委員  
会と教団にわたってこの野水池について打ち合せをしたのでござ

ざりますか。たまたまきょうはいらっしゃいませんが、安藤議員さんですか。私のところに見えまして、あそこところは御承知の通り道路が直角個所が二カ所ございまして、奥のところに入っていくときに不便である。貯水池の東側を通っている道路に付けたえたいので、地主さんと交渉中である。何とか実現し、そうだとお話しを聞きましたので、それでは新予算にその貯水池を盛り込み、道路がどういうふうになるかわからないので、一応盛入ることは見合えよう。しかしながら、必要経費と申しますか、その程度は確保しております。

○六番（秋山六三郎君）

委員の報酬の問題についてはアンバランスをおすということに検討を加えてみたというところでござりますので、この点も解りました。

貯水池の問題でござりますか。大体たたいまの説明でうなづいて



るのでござりますが火災防止という問題は非常に大切なことでありますし、ことに最近小学校の裏に市営住宅も三丁戸ばかりできております。

こういうものを守っていくためにも一日も早く貯水池を完全なものにしておくということが非常に大事だと考えますので、早急に解消していくことをお願いいたします。

〇一の番（一）田 実君一

二桌につく御質問申し上げます。

第一桌は九ニバーシ消防費の給料でござりますけれども、この中に新しく専任の消防長を置く、こういうことが説明されまして、けれども現任専任消防長の必要性どううんですか、そういうものについて説明がなかったわけではござります。

けれどもこの桌につくどの程度の必要性があるのか、お伺いしたいと思ひます。

第二点は市民センターの建設でございませうけれども、この市民センターに於ける運営管理ニは、どうしてか、では遅いことと、今かう考へなければならぬ、そうした関係の予算が全然ない、当然計上されなければならぬ、と思うが、どうして計上されなかったのか、その点について

○市長職務代理者助役（小出武男君）

消防長専任の必要性ということと、ございませうが、館山市は消防組織法の精神にのっとり、消防本部を設置してございませう。原則として、消防本部のあるところには消防長を置く、ということと、これは正規のたてまえでございませう。

館山市は今まで本部があり、たしかに、ゆる兼任でやっておったのでございませうが、いろいろ消防の状況も、市の発展とも、いろいろの方面から研究しなから、本部及び消防署をもとにして、よりよき消防運営より、強固な消防体制が望まれるわけと、

ございます。かような意味合いにおきまゝ、今回専任の消防長を  
置いて消防陣容の強化をはかつていこう。こういう考え方にはか  
はらないわけでございます。

ただいま二丁一市のうち兼任でやっておるところは若干ございま  
すが徐々に専任に切りかえつつあるというふうに考えられます。  
現在私が兼務しておりますがやはり専任の消防長をもうてば  
ちりやつていただくとお正しな姿であると考えております。

○教育長（押本禧逸 君）

市民センターの管理・運営に対する予算とこういうことでございま  
すが実はその管理・運営の具体的な問題等がよりより考え  
られてゐるという段階でございましてなるべく早い機会に管理・  
運営の主体・組織並びに市民センターの活動の内容等というもの  
をそれぞれ部署と相談いたしまして早急に決定をしてさう  
して予算化をする。こういうことでございまして。

○市長職務代理者助役（小島武男君）

ただいま私の申し上りましたところで落ちた桌がございましてから補足いたします。専任消防長の給料でございましてこれは一般取扱いで取り扱うことに考えておりましてために一般給料の方に包含されております。

○番（小田 実君）

二と呉目の市民館についてはそういう状況でいたるよういふことがいふけれども錦山市民にとりましては膨大な経費をかける作ったものですから効果的に使える、こういうような委員会なりそういうものができなければならぬ。

私はこれを機会に予算がなくておすぐさういふものを選めて次の議会に予算的裏づけがなくてはならぬので形式的なものでなく実のある組織にして市民館にかんじ鳥が鳴くことのないように要望いたします。それから消防長の専任の件についてでございます。

が、これは二十一部あるうちに兼任のところか、どの位か、わかれば教え  
ていただきたいと思ひます。

ところで今の助役さんの答弁でござりますると消防長も置くと、  
のほただ兼任より専任の方がいい、というところ、根拠、かな、ような  
気がいたします。この点について、私は今年は何度もいふ事、けれど  
も特異的な予算が組まれてゐるときだけに申上げたいけれ  
ども、次の二点についてさうに御答弁いただきたい。

まず第一点に消防長の必要性について過去、今日まで、鶴山町の  
各分団から消防署長を専任にしていただきたい、というようば  
陳情なり、要望なり、意見なりとにかくさういふものがあった  
かどうか。

第二点、今回の消防長がかわるにつれて消防委員会におきか  
要性なり、諮問なり、さういふものがあつたか、第三点としてお伺い  
したいと思ひます。

。市長職務代理者助役（ハル代男君）

第一点でござりますか兼任してゐるのはどの位かという事でござりますか大体四五本部だと思ひます。ほゞり調べて後刻お知らせいたします。

それから今回の専任消防長を設置について分団から要望請はり希望があつたか。こういう事でござるかこれについては別に要望主とか要求とかいうのはありません。

それから消防委員会にはかつたかという事でござるかこれはわかる予定であつたんですか市長が入院したしまゐたのでその機会を失つた市長も心配しくつりまゐて早速この点については歸つてきたら委員会にはかりたいという事をいつております。

二〇番（江田 実君）

その点につては了解します。

それから給料の額から申しますると手取、共済費、こういうものを

ひくろめて昨年から今年にかけての人数におきまして特別取  
か四百九十六、今年が四百九十一、一般の職員といたしましては五千九  
百五十九で全く同数でございます。そういう中でソロバンをはいきます  
と新任の消防長を入置くことによつて年間百五十万位の支出に  
なつてゐる。専任消防長というのは月給十分近くの高額な特  
別な人を置くようばゑかするわけでございますけれども消防長  
と云うのはそういう市長、助役に匹敵するすうクラスの人でなければ  
ばつとまうたのか、この点につて御答弁のほどをお願いいたしま  
す。

。市長職務代理者助役（山田武男君）

一般取給として二千四百七十八万二千円、この年に入つてゐることは  
申しにげました。消防長は八万四千円、十七ヵ月分という計算で  
人件費関係は計算してござります。八万四千円といひますれば  
教育長と課長の間位ですかあるいは教育長程度と云うことに

ふん考えまして予算を盛ったという事でござります。

○一番（辻田実君）

了解しました。大体共済その他手当からというと百五十万位になるという事がわかったわけでありますがところでこの件については先般来地方紙に二、二度県の追取職員を充てるというようなことが名前まで出ておりましてけれどもそういう事実はあるのかどうか。二ついうふうに予算化されておりますからある程度内部登用か外部から持ってくるかという方向についてはきまっておりますがその点伺いたします。

○市長職務代理者助役（小出武男君）

人事のことでございまして新聞紙上に載ったことで非常に話題に上ったんですがこの点についてはまだ全然未定でございまして私も聞けおりません。予算も通らないうちでございましてまだ当然未定でございましてさうに御承知願います。



私はこの面についてはあまり承認したくないという観点に立つわけでござります。要望も見も若干含めまうけれども非常勤の消防職員というんですが、四百九十人おるわけですよ。それでこの人たちの一年間の報酬というのが百二十四万ですよ。団員については一人千幾らという少額でやっております。

そういう中でもう一人百五十万もする人を置くことが特別な予算を編成してある今年の予算の中でいかわるかという点について判断していただきたい。従来助役代行で支障があったとか、鶴山市の消防事情からいって問題があるのだという点か。上つてくれれば別ですが私が十数人に聞いた範囲内では非常に消防運賃がうまくいっている中で今年どうしても専任を置くという点についてはわからぬ。特に私が心配するのは果の退職職員とかそういう者をどういう義理があるか知りませんが

持てきて充てるといふ失業救済のような、それとも論功行賞か何か知りませんが、そういう「こと」があるとするれば非常に、  
 富山市の消防運営に支障をきたすのではなかろうか、  
 思ふわけでありませう。

これ以上申し上げませんけれども、現在月給にいつておる消防行政に混乱のないようにしていただきたいと思ふわけでございます。以上要望いたしまして打ち切りたいと思ひます。

〇三三番（高橋文治君）

私は四十二年度の予算には直接関係してないのでござりますが、富山市の土木事業に深い関係がござりますので、お尋ねいたします。それは現在の市役所を建設するときの位置でござりまするか、位置を決定する際に非常に議論百出して難航したのでござります。私、黒澤を申し立てた一人でございますが、そのときに国分の入口から富山の警察署のところまで幅員二メートルの農道一かこ

ざりますが、あれを橋員を雇うて立派な道に二、三えてくれれば、この市役所の位置でもさしつかえないという事を承認したわけでございます。それから、もう一つ裏アツカあつて承認したわけでございます。しかしながら、あの曲う原国道二三八号線、あれが国でもう修繕ができません。うちに市で作ると不利になるから、あれができたところ、二つの方、もう二しうえようというお言葉でございます。たので、今日まで待つておつた。ところが国道二三八号線も近く完成いたしますので、市といつて、まゝしてこの国分の入力から警察署のところまで道路を新設する意思があるかどうか、お聞かせ願ひたいと存じます。

○土木課長（新井重助君）

ただいまの市道の改良につきましてお答え申し上げます。当時、そういうふうなお話があったのでございますが、おおせの通り国道の改良が、更障をきたすということで順延しており、事が本年から

都市計画の基本調査を始めましてその結果都市計画の  
路線をその地に付けるというところが根本の考へ方でございます。  
早急には無理でございますが都市計画の中に含めるといふこ  
とで考へておりますので御了承願いたいと思います。

〇三番（高橋大治君）

了解いたしますが一日も早く実現するようにお願いいたしまして  
終了です。

〇九番（安西益男君）

九〇ページ住宅管理費の十五節工事請負費二はは大賀住  
宅の井戸の新設となっておりますが大賀の住宅は確か六戸  
と開いておりますし現在笠名の住宅あそこ二に約五戸井戸  
が一個である。非常に現在でも水が足りている。なお付近の住  
宅の人たちも水不足に悩むを訴えておる。この程度の井戸の  
新設で夏をいかえてさういったことの心配はなか、お聞かせ

願いたいと思います。

それから第三桌として九ページ十五節工事請負費これは市営住宅十戸の工事費にのうに思いますが先般施政方針等にもはつきり述べられておりまして住宅関係は回・果におそらく一帯一住宅を目標に力をそそぐおり当市もまた住宅難は解消されていらない、世帯分化の傾向からまだまた計画的に建設の促進をばからなければならぬ。

このように今後の計画に於て非常な必要性を述べられておりますが現任館山市におきましてどの程度の住宅が不足しまた住宅難の解消に於てはどんな見通しを持って計画を立ててあるかその点について伺いたいと思います。

三桌目でありますけれども学校の需用費に於てであります。これがこれは小・中学校ともに昨年の需用費額から今年度

は減額されている。このように思われますがこの案は先ほども丁  
令議論議は尽されていると思ひます。けれども一桌だけお  
伺ひたい、このことは先般父兄負担軽減につきまゝて  
値下げ断行このような新聞報道がされておりました一  
般父兄の人たちは値下げされるように思つておるわけであ  
ります。従つてこういった新聞等に出されておりました値下げ  
断行されるかどうかといふことについてお伺ひたいと思ふ。

聞くとこのによりますと東京都におきましてこの四月頃全廃  
されることかばかりしております。

また県内におきましても千葉市ある等は教カ所の市におき  
ましても全廃の決議がされておるといふことを聞ておりま  
すので果してそういつたものがはつきりまゝておるかどうかう  
と案についてお伺ひたいと思ひます。

以上三案について

。財政課長一長谷川広治君一

住宅の井戸の關係についてお答え申しにゲます。現在一個正  
計画してござりまするが主幹が水道でござりましてその補充とし  
て井戸を一個張りたいという経費でござりまする。大休板桁屋  
に見ていただいたんがすか普通に出れば間に合うという事で  
計画しておりますが張つて見なければはつきりしたことは申し  
上げられませんがどうしても足りなという場合はその時期に  
おいて予算費でも充用してという考え方を持っております。  
。教育長一押本禧逸君一

ア丁Aの値下げ父兄負担軽減という問題でござりまするけれ  
どもこれは先ほども山本議員さんのときにお答え申しにゲまし  
た通りア丁Aそれ自身の会費の方は私どもとは違つた存  
在でござりまするがそれでなく学校後援会費という節面について  
予算を減らすという事についてはその線に近く持てたべきだと

いうことで学校長並びにPTAの会長さん等にも極力協賛をお願いしておりますのでさううことで進めております。

○建設課長（池田春雄君）

住宅の問題について申し上げます。

現在厚生寮のところに四十一年度に二十戸、四十二年度に十六戸四十三年に十六戸という計画で現存考えております。

笠形地区に不造の建物が四十四戸、工費の方に三十一戸あります。

さうにプレハブを五十二戸建てるわけですがございりますが将来市営住宅の位置としてあそこにかたまっているような自体になるの  
ごほかの地区船形あたりにも考えて目下いろいろ探っております。

○九番（安西益男君）

水の問題でありますけれども現在すでに水を買っておる。さういう家もあるようです。また間人ところによりますとかに村ですかそういったところにおきましても非常に水が不足し、風呂に



入れない。従って町の風呂屋さんにくる。

付近の人たちは風呂にいくにも不安を感じておる。そういうふうなことも聞っておりますので水は生活上切っても切れない重要な問題でありますので真をひかえて十分対策を講じていたきたいと思います。このようにこの点については要望いたしておきます。

それから住宅の問題であります。先ほど先輩議員から血の通った運営を本気になくてやっていたきたいと思います。このようなお話もありましたので市民の人たちがいかにいたう住みよくいかにいたう生活の向上ができるかというのを本気になくて将来考えていたと思います。このようにお願いいたしまして住宅の問題も了解したいと思います。

さらに学校の問題につきましても、PTAの体質改善ということも最近では非常に強く各方面で指摘されておりますのでな。お市長さんも父兄負担軽減というところはかつて任期中に必ず

断行する。このようにはっきり申されておられますのでさうに十分考慮をばうていただきました。

以上申して終了です。

副議長（松本藤太郎君）

おわかりいたします。

歳入の部の質疑はこの辺で打ち切り歳入の部に進みますと思ひます。

これに御異議ありませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

副議長（松本藤太郎君）

異議なしと認めます。

これより歳入の部の質疑を行ないます。

暫時休憩いたします。

午後四時

七分

休憩

午後四時三十分

再開

。副議長（松本藤太郎君）

休憩前に引き続き会議を明きます。

歳入の部より質疑を行います。

。八番（望月照正君）

七ページ、市民税の個人所得の減と法人所得の増額がなれておりますが、この説明をもう一ぺんお願いしたいと思います。

第三点といたしまして、固定資産の件ですが、これにつきましても、決算委員会から報告のありました通り、医療センターと西岬荘の分の固定資産はこれに入っているか、お答え願いたいと思っております。

。財政課長（長谷川弘治君）

私からお答之中にヒゲます。あとの方の問題で固定資産税の中に入っているかどうかということでございますが本年度は一応税課税客体の中に入れてございまして計算をいたしております。

法人・個人との関係でございますが法人につきましては四十一年度の現在の決算見込み額を用いましてはじいております。

それから個人分につきましては四十一年度当初予算及び四十一年度の決算見込み額等を勘案いたしまして現在図がいろいろ税制改正は計画中のようでございますがこれははっきりしませんのでそういうものは織り込まないで現在のまま数字としては計上しております。

八番(望月昭正君)

この法人税の中に個人商店の法人に切りかえた方、この件数は何件位ありますか。

市民課長(羽山房雄君)

ただいま手元に正確な資料を保持しておりませんのでのちほど調査してお答えいたします。

八番（望月照正君）

わかりました。昨年度は個人が法人に転化した件数が多いうつに見受けられますから、これを何件位の評価で、これ位にしたか知りませんが、見込み違ひがございまして訂正してふやすうはお考えをうけていただきますと思います。

〇〇番（江田実君）

三桌につて簡単に御質問いたします。

一九ページ果委託金の四節、自衛隊募集業務交付金二万四千円、今年も若干ふえておりますが、支出はどのくらい出ておりますか、これで実際にどの程度の実績が上ってくるか、参考までに教えてくださいいただきますと思います。

二三ページ六節水道交付金九百万円ですけれども、これは三万

の水道だと思ひますがこの寄付金の納入状況そういうものは所  
期の目的通りいくおるかどの程度進んでおるか概況を御説  
明願ひたいと思ひます。

二四ページ開発公社の貸し付け金収入でございましてけれども  
も開発公社につきましても順調にいくおるようございましてが  
市に繰り入れる場合開発公社自身が利益を得ておる  
かという事です。開発公社は市の事業委託ということござ  
いますけれども市の金かそのまま入ってくるのか市を代弁  
してやるというだけのものか若干の利益なり事務費程度のも  
のを確保しながらやられておるのかその点について簡潔にお  
伺ひたいと思ひます。以上 三矣

。市民課長（羽山 房雄 君）

第一点の景妻託金の自衛隊募集事務の交付金につてお  
答えいたします。

千葉県地方運輸部におきまして年間館山市の一般募集  
目標を八名程度においております。年間館山市の高等  
学校等を通じて応募する者以外の一般市民の中かう日  
標が十分達成されております。

一万四千円の新額でございますが人件費の一部に充てるた  
めに交付されてゐると伺つております。

○衛生施設課長（吉田耕一君）

水道寄付金でございますがこれは今回神余へと水源を  
求めます簡易水道事業に對するりわゆる受益者負担  
というものをお見込みされて一般会計に寄付していただく  
一般会計からの繰り出しをいたしまして実施するわけござ  
います。組合立の関係ではございませぬので御承りくださ  
いと思います。

○市長職務代理者助役（小出武男君）

開発公社の内容でござりまするが公社ができてやつてゐる仕事は全部市の委託によつてやつてゐる事業のみでござりまする。それから市からは予算によつて無利子で借りてゐるわけでござりまする。現状はツーパーでやつてこつてゐる状況でござりまする。

市民課長(羽山房雄君)

先ほど八番議員さんからの御質問に付しまして調査しましたところ昨年度中に申請されまして法人数は三十件でござりまする。

一〇番(辻田実君)

一桌と三桌につてはる解いたしたと思ひます。

水道寄付金ですけれども私勘違ひしてありましてが神奈の方でござつて特に計数的にくわしく教えていたゞきたいと思ひます。

衛生施設課長(吉田耕一君)



南部間易水道関係の寄付金九百万円でございます  
かこれは現在区域として神奈、竜岡、中里、大石、大神宮、相  
模、那良、これだけでございます。その戸数の把握をいたしまし  
たのが千三十四戸でございます。

このうち加入見込は、 $60\%$ と見込んで六百戸、それに付  
いて一世帯あたり一万五千円ということで見込が、まゐた、  
これが九百万円でござります。

二の番（け田 実君）

大体了解いたしました。最後に二点だけお伺いしたいんです  
が、三の簡易水道の場合、受益者負担が一萬五千円である  
わけですが、三芳地区の場合は二万円と伺っております。わけが  
いますけれども、額が違ふし、さらに親切。その他の簡易水道  
に、おそ、額が違つてゐる。これは工事費によつて算出されてく  
るもので、当然だということになるかと思ひますけれども、そういうことで

よういふござりますか。それから第三点として、こういう公共事業集にお  
りて場合によると三万円、四万円納めないとできない。こういう地域  
もござりますし場合によると一万円でもできるところもある。

こつうマンバランスがあつて経費の面だけから負担金の積算と  
いうものをとりますと非常に市民の利益にアンバランスがあつて  
くる。こつうの面につて水道を引く場合各戸の負担金は最  
高限度の程度だ。この程度までしてもらつてあとは一般会計か  
ら繰り入れる。こつういう方法が考えられるかどうか。二点につて御  
質問いたしたと思ひます。

。衛生施設課長（吉田耕一君）

確かに御質問の通り工事箇所によりまして差を待つておる  
現状でござります。しかしながら私どもの考へ方としましては上  
水道と簡易水道の負担差というものはある程度あるという考  
へ方を持つておるわけでござります。

竹間易水道

につきまゝは五千未満でございます。割合  
こんなところにある地域が多い。なお有が通人でやるのかた  
まえではござりますが現状ではどうもその地域からの  
要望を中心として現在実施しております。多サ多くの  
負担をかけておるのが現状でございます。大体上水道関  
係につきまゝは三万円を限度とする考えでございます。  
なおこの一全額を打ち出します段階といたしましては地  
域の方にもござるだけ話し合ひましてある程度の了解  
をいただけてその範囲で努力いたしてゐるような現状でござ  
います。

副議長（松本 藤太郎君）

おはかりいたします。

議案第二十号一般会計予算案の質疑はひとまずこれ  
打ち切り議案第四号特別会計国民健康保険予算

案の質疑に進みたと思ひます。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。副議長(松本藤太郎君)

異議なしと認めます。よつて第三号議案の質疑を終  
ります。

これより議案第四号の質疑を行ないます。

歳入歳出を一括して行ないます。

。二九番(鈴不市藏君)

私は統括したことで聞いてみたいと思ひますがわかりやすく  
いえば一世帯で去年と今年の場合何%位上りまいたか  
保険税です。

。保健衛生課長(池田亮山君)

平均額で申しますと現時点の算出で八・三%。

〇一六番（関 武夫君）

国庫からくる額が去年よりも少いといふのでありますが、その理由を御説明願いたい。

〇保健衛生課長（吉田耕一君）

現年度より金額としては若干減つております。これは前年度当初予算では国庫支出金を交付率を一〇〇％に見込んでござります。

本年度は給付費の場合でございまして九五％見込んでおります。これは強引果の指導、要望がございまして、やむを得ず九五％に組みました。が、実際には若干の伸びがあるように考えております。

一番（吉田勇治郎君）

四号議案についてはお質問の人もあろうと思ひますが次に進まれることを望む者であります。

五号乃至九号までを一括質疑する事を議会運営協議会を代表して勸議を提出いたします。

○副議長（松本藤太郎君）

ただいまの勸議に御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（松本藤太郎君）

異議なしと認めます。よつて議案第四号の質疑を打ち切り議案第五号乃至第九号までの各特別会計予算案を一括して質疑いたしたいと思います。

二本に御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（松本藤太郎君）

異議なしと認めます。よつて議案第四号の質疑を打ち切り議案第五号乃至第九号までの各特別会計予算案

を一括して質疑いたしたと思ひます。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり。)

副議長(松本 藤太郎君)

異議なしと認めます。よつて第五号から第九号までの  
五予算案を一括して質疑を行ないます。

この番(辻 田 実君)

簡易水道の特別会計についてお伺ひいたしたと思ひます。

先ほどの予算の中にも出ておりまいたけれども大勢の市営  
住宅に井戸を掘らなければならぬということご予算が  
計上されまいたことにつて非常にふしぎに思う。あの地域は  
宮城水道が敷かれておるわけでございます。

市の水道が敷かれておる中に莫大な金を使ってやらな  
ければならぬという状況。こういうことはあの地域は宮城水

道に付ては給水が不完全であるという事がいえるのではな  
か。この点に付てはどうか。

私もあの地域からいろいろ苦情を聞いておりますが、現在  
市営住宅の周辺、高台に於ては水がほとんど出ないという  
状況。この点に付てはどうか。そういうことを把握してゐるのかと  
いう点に付てお伺いしたい。

従いまして水道使用料の中に宮城の四百五十万というもの  
は水の出ないときにはある程度水道料金を免除するとか  
そういう方法があるのではなからうか。これは予算されての四百五  
十万であるのか。この点を三項目にお伺いしたい。それから歳入  
になると思ひますけれども常に補正予算の中で水が出ないこ  
とによつて給水車の予算というものがばかにならうない額が出て  
あるという事でござります。なぜそれが当初予算に組まれなから  
うか。これはどういうわけか。まずこの点に付てお伺いいたします。



○衛生施設課長（吉田新一君）

確かに御指摘のように現段階としての給水が十分でない水量でございます。源水の貯水池も現在五万二千トンの水量しか貯水できない状況でございます。これは丁度ばまかなひ切れない源水であるというところから一部農業用水の借り上げあるいは河川からいろいろ施設をいたしまして水を取らる。というような現状でございます。なお私どもの管理になる前に井戸も掘ったということもございますが塩分が強くて飲料水に適しないというところでまだほうきりとりた水の確保に到達しておられないのが現状でございます。

次の水道使用料の関係でございますが本年の今までの歳入状況から見ましてこの程度は収入見込めるといふところの方で四百五十万円計に入っております。

それから給水の費用の関係でございますが私どもといたしま

しても給水車を購入して、いつでも困ったときにすぐ使  
得る態勢を取りたいという事で、現在関係課の方に給水  
車の購入をお願いしてゐるようば状態の中で中古車でごさ  
いますか、できれば本年中に何とかしたい。こういうふう  
に考へて借り上げ料等につきましても計上いたしませんでし  
たので、御承りいただきたくと思ひます。

○一番（一）田 実 君

おおむね了解いたしました。

もう一、二、助役さんに聞きますけれども、質疑の中にあつた  
ように、笠名地域におきます水道事情は、ピンチにきてゐる。  
そういう中に市営住宅を建てていく。市営住宅が建ててい  
くことによって、土着の市民が水が出なくなつて困るゝある。

地域の住民の福祉というものを考へずに、市営住宅を建て  
る、この案についてどう考へてゐるか。

。市長職務代理者助役（市出武男君）

ただいまの御質問は私も常に考えておるところでござります。大買、笠名をはじめ西岬方面、鋭切においても同様でござります。水の量と入りの増加に付するシレニアがあるわけでございます。今年一年位は水の操作をいながらやり得るといふことで作ることにしたわけでありまして、今後集団住宅の地区とくはそろそろほかにかえるべきではないかという考えを私も持っておるわけでございます。

の一番（一）田 実君

次にと畜場会館について三桌ほどお伺いしたいと思ひます。細かり桌については特別委員会にまかされたかと思ひます。

一七二ページ三節職員手当十八万九千円、これはと場の管理人のものかと思ひますが特殊な業務で最近は一八千圓と腹を処分してさらに千もふえてゐる中で非な労働人ですか

給料が非常に低いのはなにかと思ひますが、この点も御伺ひたい。

それから賃金の面で解体と夫になつて大体一年近くなると思ひますが、これらに於ても特殊な業務でございましょうけれども、労災保険には入つてゐるようでございしますが、その他の労災保険とかけらうものにつては臨時と云ふことで待遇を受けられてない、もうそろそろ前年の職員に繰り上げていくという形が、できないものかどうか、その点につてはどのようにお考えになつてゐるか、お伺ひしたい。

三と云へば丁五節工事、請負員費の中で井戸堀さく工事と脈繫留所工事の二が、俗に云ひ込みあそびが非常に混乱してゐりまして、逃け出したりする場合もございします。現場で困つてゐるもので、この経費の中で十分消化できるものかどうか、以上三点を簡単に御答へ願

いたいと思います。

○衛生施設課長（吉田耕一君）

人件費関係でございますが確かに相当の激務もやりますし、依りというふうに私も同感でございます。しかしながらこの方も同期の人たちと同じ昇給をしておるという観点からその人だけを上げるという点もいろいろ考えるわけでございますが確かに一人の管理人ということでもいろいろ作業をやりまして実際にはおくさんもいろいろやつておられるわけでございます。いまも私も何とか考えていきたいという考えは持っております。わけでございますが四十二年度におきましてはそういう面を予算計にもしておりませんが十分相当課の方とも話し合まして改善していきたい。このように考えておる次第でございます。次に二桌の臨時のときの関係でございますが御承知のようにもう相当なれてきておるわけでございますが大体補助者等に

つきまゝでも相者長くある方もあるわけでございますがそういった面につきまゝで一応解体者につきまゝでは大休業者の方でございますので一頭当りの単価でもって現在雇ひとげておるような状態でございますのでこれはそのままにしてもらふ補助者については今後十分御意見にそういう關係課と相談して善処して参りたい。

このように考へる次第でございます。

それから三束の工事請負費でございますがやはり現在の取水では足りない現状でございます。夏季とか暮等におきまして週に一回多くやると足りないという状況でタンク車で運んでのりてやつてゐるわけでございますので本年度あそこ付近の電探等によりまして調査いたしまして大体百トン程度の取水を見ないという考へ方で井戸を掘りまして衛生的に処理できるようにしたい。このように考へて計上したわけでございます。

います。

警察留所の関係でござりますが頭数が多くなつて参りまして現在困つてゐる状態でござりますがこの百万円のうち七十万円を井戸に三十万円を警察留所の整備をいたしたと云うことでお願ひいたしました。

○の番(一)田 実 君

大休了解りました。第一桌の取員手考でございますけれどもこれは現実には隔日と云うことで休の賃金だということにござりますけれども百おきに休める。その日はマルバイトやれば収入があるという考えてございます。ようかそういうことをやれば麻痺してまいまして休みの日でも家畜かきておりましてそれを管理しなければならぬ。そういう面がございまして普通の勤務と云うことで考慮しないと困る。今の管理人がいなくなると今後ああいう人を頼むと云うことになるかと特殊業務ですからいい

わけでございますと殺日は一日おきという事は取り除いて平  
常の通りにいたしたい。

ニ番目の賃金でございますけれども一人でも二人でも補助者  
に付くは市の職員ということで管理入の後継者を作らないと  
困る。

東京のあの事件のような不正が起きうなように補助者に  
ついて市の職員にしていたたいという事を要望いたしまして  
終わります。

○一番(吉田勇治郎君)

議事進行上ただいま議題となっており、議案第三号乃  
至九号予算案に対する質疑はなおいさう御存じもあろ  
うかと思ひますが、この辺で質疑を打ち切りましてさ  
うに詳細に内容を審議する必要があると認められまゐる  
ように詳細に内容を審議する必要があると認められます。



ので予算審査特別委員金を設置してこれに一括付託を  
し審査をお願いしたと思います。なお委員の数は従来  
にならうて十二名程度か適当であらうかと思ひます。

その選出方法は議長の指名によりたいと思ひますのでここに  
動議を提出いたしますのでよろしくお願いいたします。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)

ただいま一番議員君の動議は議案第三号乃至第九号  
の予算案の質疑はこの辺で終りただちに予算審査特別委  
員金を設置しこれに一括付託する。なお委員の数は十二名  
選出の方法は議長の指名によるというところであります。  
おはかりいたします。

この動議に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長（松本藤太郎君）

異議なしと認めます。よって決しました。

これより予算審査特別委員会の委員を指名いたします。

一番議員吉田勇治郎君 四番議員館石伝藏君

六番議員秋山六三郎君 八番議員望月照正君

九番議員安西益男君 西番議員志村信作君

七番議員里川佐太郎君 八番議員西村真次君

九番議員藤田好治君 二三番議員中村有吾君

二四番議員島野茂樹郎君 二七番議員嶋田繁君

以上十二名 予算審査特別委員会に選任いたします。

これに御異議ありませんか。

（異議なしと許す者あり）

副議長（松本藤太郎君）

異議なしと認めます。よって決しました。

重ねておわかりいたします。

ただいま決定されました予算審査特別委員会に議案第三号乃至第九号を一括して付託し、次会の本会議まで審査を了し、その経過並びに結果について報告を求めよういたしました、と思っております。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

副議長(松本藤太郎君)

異議なしと認めます。よつて決まりました。

ただいま選任されました特別委員の方は本日会議散会後、この議場において正副委員長との互選を行ないますので、お残りくださいよう願ひいたします。

本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は来たる三月二十八日午前十時開会いたします。

この議事は議案第三号乃至第九号昭和四十二年度予算案にかゝる予算審査特別委員会委員長の審査の経過並びに結果の報告 討論 採決並びに追加議案の審議といたす。

午後 五時 二十分 散会

今日の会議に付した事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田勇治郎

小柴 孝

錦 石 伝 蔵

秋山 六三郎

田 村 源治郎

望 月 照 正

安 西 益 男

辻 田 実

石井

正

菊井敏博

志村信作

小沢恵太郎

関武夫

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

石塚壽三

中村省吾

島野茂樹郎

嶋田繁

山田敬亨

鈴木市蔵

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

山口康

欠席議員

鈴木正一郎

田中祿郎

萩生田七郎

安藤龜吉

安沃順

負山司訓全

